

第30回 DAAS運営委員会

□ 日 時： 2015年8月5日(水) 14:00～16:00(予定)

□ 場 所： 財)建築技術教育普及センター内第6会議室

〒120-0097 東京都千代田区紀尾井町 3-6 紀尾井町パークビル 3 階

Tel: 050-3786-0568

□ 議 事：

[報告事項]

- | | | |
|-----|---------------------|--------|
| 議案1 | 2014 年度のコンテンツ制作成果報告 | (動画放映) |
| 議案2 | 国土交通省への WG 成果報告について | ……資料1 |
| 議案3 | DAAS 企画運営部会開催報告 | ……資料2 |
| 議案4 | その他年度末、年度初めにむけた報告、等 | ……資料3 |

【今後の予定】

- | | |
|------------------|-----------------|
| 2015 年 9 月下旬 | 運営委員会 (総会議案の審議) |
| 2015 年 10 月 1 日～ | 第 10 期 |
| 2015 年 10 月上旬 | 会計監査 |
| 2015 年 10 月下旬 | 総会開催 |

□ 配布資料：

- 資料1 WG 成果報告 議事録
- 資料2 第 1 回 DAAS 企画運営部会 議事要旨
- 資料3 第 9 期収支計算書(案) (2015 年 8 月 4 日現在)

第 29 回 DAAS 運営委員会議事要旨

---当日の進行、議案の要点、等(案)----

■議案1 ■成果報告は、卒業設計、昨年度のビデオ、芦原先生のビデオ、VR など(事務局から)

■議案 2 ■WG 成果報告@国交省

6/10WG 成果と意見交換の報告[要点]国交省との意見交換内容の共有。

→意見交換でのキーワード

- 1.情報発信:特に海外への情報発信
- 2.連携など

文化庁の連携は引き続き、その他海外の機関との連携も検討

資料の権利調整:海外発信や連携、PR等の目標に向けて。

オリンピック:日本を魅せるコンテンツの企画と制作

※こちらは成果報告後の竺先生、三塩さんとの打合せで

法人化:早急には難しいという意見があるが契約・権利調整で必須。中期計画をたてる

- 3.コンテンツの収蔵ポリシーの設定:不明瞭だった収蔵ポリシーの再確認

DAAS メリットとは?という議論、コンテンツ作成支援金での制作内容

■議案 3 ■

部会の主旨説明・部会での検討事項(軸)の再確認

→部会主旨

1. 運営基盤安定化に向けた検討体制の確立に関する事項
2. DAAS 活動の継続と拡大に関する事項
(事業計画に基づいた事業の企画と実施方法の検討等)
3. 他機関との連携に関する事項
4. その他、DAAS 運営、活動に関する事項

当面の課題として以下

- ・「会員拡大」に繋がるコンテンツ成果の検討
- ・継続的国庫支援の要請 等

部会での意見(詳しくは、議事次第 議案3の意見まとめ参照)

1. 各課題のビジョンを作成し、中期計画を部会で立案、タスクリストを作成し、それにそってすすめていく。
2. 収蔵について
 - (ア) ポリシーの設定
 - (イ) 限定したコンテンツの収蔵
 - ① 例:プロポーザルの記録、JIA 建築年鑑、学会の作品撰集
 - (ウ) 1964 年、2020 年のコンテンツ、その時代に共存する建物
 - (エ) 世界遺産(ただし、既に界遺産登録の文化財オンラインという Web サイトも有り)
<http://bunka.nii.ac.jp/index.ph>
 - (オ) 世界遺産に登録されたもののデザインサーベイ、大学ごとの実測資料の保管など

3. コンテンツ収集の企画、制作について(ビデオの撮影候補者等、議事要旨参照)
4. 連携
(ア)NPO KIT, アメリカ議会図書館、等々
5. 国交省の補助金要請。海外展開という文脈も新たに検討

■議案4■事務局から

1. 収支計算書案 8/4 現在 単年度黒字予定(日本設計さんの会費が未納です。)
2. 年度末、年度初めスケジュール

8月上旬	会員情報変更有無の確認を完了。 理事長、副理事長、監事のスケジュールを確認して10月の総会日時を調整予定。
9月下旬	運営委員会 (総会議案の審議)
10月1日～	第10期
10月上旬	会計監査
10月下旬	総会開催

WG成果報告 議事録

1. 日 時: 2015年6月10日(水) 14:00~15:00(予定)
2. 場 所: 国土交通省 住宅局 建築指導課
(東京都千代田区霞が関2-1-3 TEL:03-5253-8111(内線39-516))
3. 出席者: 建築指導課 原田企画専門官
DAAS 笠WG主査、三塩運営委員長、武藤
4. 配布資料:
資料1 運営基盤の安定化方策検討 報告書(WG報告書)
資料2 運営基盤安定化検討WGの成果と企画部会の設置について
資料3 DAAS企画運営部会企画書(案)
資料4 平成26年度のコンテンツ制作成果報告(サンプルとして一部)

5. 議事 :

[報告事項]

(1)運営基盤の安定化方策検討 報告書(案)について

2014年に設置された運営基盤安定化WGでの検討事項をまとめた報告書(案)(資料1、2)に基づき、事務局より説明。成果とその後の継続的課題などを笠WG主査より説明。またWGの課題を引き続き部会にて検討する事を説明。

(2)今後のDAASのコンテンツ制作、運営方針、方向性などの意見交換

DAASの今後について 原田氏、笠氏、三塩氏で意見を交換。以下にまとめる

[情報発信について]

- ・アーカイブ＝保存活動ではあるが、同時に「情報発信」も必要。
- ・收藏された写真を利用するとなると「権利」の問題がある。
- ・JIAから(現在は芦原会長)国土交通省へ保存活動、海外への情報発信の展開について話があった。企業会員から見て、国内への展開より海外への展開があれば、企業メリットとなり、資料提供も望めるのではないかと

[海外への展開について]

- ・現在、日本から海外への展開、発信する窓口がない(笠)
- ・DAASは現状でも、海外からの利用申し込み、閲覧登録がある。
- ・海外機関との連携を2案提示。ARTSTOR (ゲティとコロンビアのアーカイブ)と議会図書館。ARTSTORへの展開となると、現状DAASでは、費用と著作権で問題がある。
- ・議会図書館に建築図書館がある。歴史建築の記録があるが、チーフキュレーターが中原女史になった。議会図書館との連携はどうだろうか。ただし、その場合ネックとなるのはDAASに法人格がないこと(笠)
- ・日本の建築の良さを海外へアピールする。

- ・賞を受賞する建築家を支える日本の施工性のクオリティ(技術、システム)は海外でも知られており、定着している。
- ・海外はデザインと構造の教育が別である。日本の建築教育は、構造、デザインも総合的に力をいれているという利点がある。それを海外に周知し売り込めれば、というところ。
- ・大手設計事務所も海外展開へ視野を向けている。
- ・海外への発信をするので、著作権freeにという呼びかけを行うということも可能だろうか。

〔連携〕

- ・JIAではNPO法人を発足しアーカイブを所管している。(NPO法人文化継承機構)
- ・業界の問題として、JIAの場合はゼネコンの設計部は含まれないなどの制限・境界がある。
- ・近現代建築資料館では、収蔵ポリシーの設定のための懇談会を設置(6/26より始動)
- ・デジタル情報の発信について省庁間での話し合いはできないか。→あり得る:ただし、国交省が文化庁の、もしくは逆の形の各官庁間が相互に情報発信するということはない。
- ・文化庁との連携についても時間軸がよめない。

〔法人格について〕

- ・「準備をしていくものは何か。」「何年計画ですすめていくか」の時限的目標ができていない。
- ・著作権の処理も、いずれは必要。二年でやる、などの目標をもち会員に対しての説明もできるようにしておく必要がある。(その場合、法人格は必須)
- ・文化庁の委託業務も、法人格を持っていないと契約は取りづらい
- ・時限的目標がなければ書面としてまとめ、会員へ報告するにもリアリティに欠ける。法人格の議論だけはやる、など(三塩)
- ・今抱えている課題のすべてのクリアは難しい。部分的な話からの解決となるのでは。法人化について、権利関係のために、という説明はある。ただし、その後はどのようにするか、という懸念。法人化は、財政的に難しいのではないか。(原田)

〔資料の権利調整〕

- ・資料(写真)ごとに商用を希望する方のプロモーション用、公開だけ、等の切り分けをしてもよいのではないか。(原田)
- ・活用されることで、周知される、利用されるということになる可能性もある。

〔その他〕

- ・設計の実務では海外展開の際に資格(ライセンス)問題がある。
- ・部会で掘り下げた検討をして、来期は実行、という形にしないと会員への説明がつかない。
- ・目標が設定できれば、方法・予算も立てられる。権利関係で確認した結果をもって次の行動が計画がたてられるようになる。
- ・会員企業メリットを考えるのが先ではないか(原田)
- ・今後のDAASの軸(収蔵設定、中期計画)を設定しそれに向かい、何年か集中して進める。たとえば、オリンピックにむけて日本の建築を魅せる、アカデミックな視点、観光的視点で建築を魅せる、など。

以上

第1回 DAAS企画運営部会 議事要旨

1. 日 時：2015 年 7 月 10 日（金） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 30 分
2. 場 所：財）建築技術教育普及センター内第 5 会議室
〒120-0097 東京都千代田区紀尾井町 3-6 紀尾井町パークビル 3 階
Tel：050-3786-0568

3. 出席者（敬称略 順不同）

主査：竺（学会）

幹事：三塩（日本設計）

委員：鰐坂（JIA）、鈴木（士会連合会）、今倉（日建連）、中田（宮城大）

協力委員：原田（国土交通省）

その他：三田（すみだクリエイターズクラブ）

事務局：武藤

4. 配布資料：

資料 1：「DAAS 企画運営部会（仮称）」の設置について(案)

資料 2：WG 成果報告 議事録

資料 3：タスクリスト

5. 議事：

議案に入る前に、事務局より 2014 年度のコンテンツ制作における成果である「芦原太郎氏のインタビュービデオ:オーラルアーカイブ」映像(故 芦原義信氏の武蔵野美術大学でのアーカイブ整備や義信氏設計の建物の改修等についての動画)とデジタル卒業設計大賞 2014 の懇親会の様子などを動画で一部放映した。また、映像制作を依頼した、すみだクリエイターズクラブ所属の三田大介氏を事務局より紹介した。

■確認事項

[議案1] 部会設置の主旨・検討事項の確認

竺主査より資料1に基づき、第9期のWGの成果をうけた企画運営部会の設置とその趣旨、今後の検討事項について再確認を行った。

■検討事項

[議案2] 国土交通省へのWG成果報告と結果について

議案1に続き議案2のWG成果報告書を国土交通省へ提出したこと、また、その際の意見交換について資料に基づき、竺主査より説明を行った。また意見交換の内容については以下について補足説明を行った。

(竺主査より補足)

「海外機関との連携」において、ARTSTORの日本の建築作品は網羅的ではないのでDAASのデータが有用だと考えている。また、議会図書館はアーカイブである。代表的な収蔵資料は、ライトの図面や、アメリカ歴史建築サーベイ(Historic American Buildings Survey=アメリカの歴史的建築物を実測して図面にしたもの)をアーカイブしている。その図面が議会図書館にある。税金により作成されたので、著作権はフリーである。ここの連携がとれないかと考えている。(参考URL:

<http://www.loc.gov/pictures/collection/hh/>)

「国内での連携」について。文化庁の近現代建築資料館の懇談会は主査が市川氏(名前が聞き取れず話者に確認)、芦原氏、後藤氏(工学院大学)も参加されている。

懇談会の主旨、すでに収蔵庫もいっぱいになっている。1.収集ポリシーを明確にすること、2.文化庁(国費)での資料収集・保全について、建築の方が参加し、対外的にどのような説明をしていくか、意味は何かを明確にすること、3.これからの資料館のあり方を確定すること、の3つを目的としている。国で制作した資料館として、日本全体の資料収集のコンセンサスを策定していくこと、また、全国の資料収蔵ネットワークのハブとなる事を目指している。近現代建築資料館はデジタルデータを作成し、データベース化を進めている。ただし、他の機関と競合しても意味がないため、連携・統一できれば、と考えている。

いづれにしても、活動、連携、著作権処理、契約等について考えた際に、「DAASの法人化」が必要である。その協議が必要である。文化庁とも法人格がなかえれば契約はできない。

[議案3]当面の課題に関する検討

議案2に続き議案3について、参加委員の意見の意見を確認

【以下、議案1から議案3についての委員からの意見のまとめ】

1. 各課題にビジョンを作成、中期計画を部会にて立案。タスクリストにまとめ進めていく。
2. 収蔵について
 - ・ 目標、ポリシーをもって、企業や会員、建築界にとってニーズの高い集中した資料収蔵を検討すべき。実務的に有用なコンテンツを目指すことも大事である。
 - ・ 企業メリットを考えたとき、海外展開、日本の建築技術を海外へ紹介するときに、DAASが紹介できればという話もある。日本の建築資料が揃っているというアーカイブになればよい。
 - ・ コンテンツを限定し、それを「全て集約する」ことが重要。それがアーカイブとしての価値をあげ、DAASの特長になる。
 - 例として
 - コンペ・プロポーザルの記録
 - JIA建築年鑑・学会の作品撰集

- ・ 東京での二つのオリンピック 1964年と2020年とをつなぐコンテンツ、そこに共存する建築を盛り込む、など。
- ・ オリンピックで、海外の興味が日本に向けた際の建築のガイドとして、どのようなアーカイブにするか、どういう利用を促進するかを検討した収蔵をする。(オリンピックの関連施設ということではない。)
- ・ オリンピックコンテンツと平行して、アクセス数の確保のための世界遺産の建築資料の収蔵を検討してはどうか。ただし、資料は自治体に問い合わせをするのか、どこが保存を行っているか確認する必要がある。
- ・ 世界遺産に登録されたもののデザインサーベイ、実測の資料を大学で保管しているのではないか。

3. コンテンツの収集・企画、制作について

- ・ 部会でのビジョン/シナリオ/文脈を検討、作成し、コンテンツ制作をすすめる
- ・ テーマは複数作成。それぞれを具体的な案に固め、平行してすすめる。

具体例

- 収蔵物と関連した動画の企画・制作。
- 芦原理事長のオーラルアーカイブからつなげて武蔵野美術大学(大学の資料など)に関するコンテンツ制作、収蔵など
- 連携とからめた建築家 仙田満氏の動画制作(NPO文化継承機構)
- 二世代の建築家のビデオ(谷口吉郎氏・吉生氏、東孝光氏・利恵氏など)
※ 特に谷口氏は、オリンピック、金沢等に関係がある。
- 女性のオーラルアーカイブがないので企画に含めてはどうか。例えば、長谷川逸子氏、篠原聡子氏、など
- 動画の英語化(字幕の制作、YouTubeの自動翻訳をつかえないか)
- 坂倉事務所や丹下事務所のように「後継者が振り返る」という内容のコンテンツでもよい。
- 80、90年代の実測図面と現況の比較コンテンツなど(撮影、VR等?)

4. 連携について

- ・ JIA、KITとの連携。電子部門をDAASが補完ということではどうか。
- ・ NPO文化継承機構との連携
- ・ アメリカ議会図書館のWebサイトへのDAASのリンク表示(英文サイトはほとんど整備されている・ただし英語字幕のビデオは一部のみ)

5. 国交省への補助金の要請について

- ・ アーカイブということでの費用の確保は難しい。現在は街並み保存の一部からDAASのコンテンツ制作の支援金を出している。
- ・ 海外展開、という文脈も考えられるかもしれない。

【以下、議案1～3について意見の文字興し】

(鯨坂委員) JIAについて。部会、委員会も縮小している状況であり、費用も厳しい。同様な活動は統一したいというのがJIAの意見である。また、国立近現代建築資料館のデジタル化については、意図が違っているように感じている。図面収蔵については坂倉事務所としては、現用図であり、クライアントが改修時利用するので、図面返却をする。そのためのデジタル化である。その資料のうち、オーナーがOKということになれば公開していくということである。一方で、原田企画専門官の意見のように、会員としてJIAのメリットを考えると、建築年鑑が10冊、1200作品のPDFがあるので、そういったものをどうしていくか、ということの提案をしてみたいと思う。(現在は鹿児島にいるため)中央の情報が入るとよいと感じる。例えば最近だとコンペやプロポーザルはしばらくすると情報がなくなっている。それが蓄積されればと感じる

(笠主査) KITではJIAの環境建築賞の収蔵を始めたが、実際に公開となると、了解が得られない。

(鯨坂委員) JIAは 環境建築賞、25年賞、優秀建築選も年鑑にまとめられている。(建築年鑑を発行後)5年程度で情報はなくなる。

(笠主査) 建築学会の作品集も同様に情報が見られなくなる。

(三塩幹事) 何か具体的な収蔵目標がないとすすめられない。以前UIAを目標としたようなタイミングがあれば、中期計画を立案し、あるコンテンツに集中して集める、ということにしなければ、同じ議論が続いてしまうように感じている。鯨坂委員の意見からも感じたが、コンテンツを限定し、それを全て集約することにアーカイブの意味、力になる、と考えている。JIAとKITに加わる、支援関係を築くなどもよいと思われる。コンペ、プロポーザルの情報がなくなる、それを集めることにニーズがあるとするならば、それをターゲットとして、各自治体にアクセスする。(DAASのコンテンツの)特長をだしていく必要がある。企業会員としてはメリットにつながることは難しいと考える。建築設計、建築界を支える活動をしているのが見えることが重要で、一般の方々をターゲットにした活動をしている、ということになると組織事務所として会費で支援するということは、目的からするとぶれてしまっているように感じる。業界の人が求めるモノ、支えていると思えるモノを収蔵することの方が、会員からも理解が得やすい。

(笠主査) 基本的なコンテンツ制作のポリシー、方向性がなかった、かけていたと感じている。第一義的には、企業会員のニーズに応える、ということかと。そのコンテンツは何であろうか(何を制作、収蔵すればよいか)ということ企画・立案する必要がある。

(三塩幹事) JIAやKITと結んだ活動などではないだろうか。

(竺主査) JIA-KIT建築アーカイブは、NPO法人建築文化継承機構が運営し、仙田満氏が代表である。芦原氏は理事。そちらとDAASとの間で連携し、JIA-KIT建築アーカイブスの電子部門をDAASで、という関係は作れると思うのだが。現在は、現物保存で作品集を制作し発信する出版事業で若干だが利益をだしている。

(三塩幹事) JIAと連携すれば、JIAからもDAASの活動を発信してもらえるとというメリットがある。
現在のDAASは周知される術が限られている。機関誌などに掲載される機会を増やす、等。

(竺主査) 金沢工業大学でそのアーカイブを引き受けているが、建築アーカイブス研究所が所管し、費用をだしている。大学からの費用と、外部費用、つまり科研費。それで研究をしている。図面などを設計教育に使う、展覧会を開催するなど。大学として資金を出しているが、JIAとしても費用をということでNPO法人を設立した。それで金沢工業大学にも示しがついている。

(三塩幹事) 鯉坂委員のどこも似たようなことをやっている、という話だが、それぞれをつなげて、それぞれの役割を果たしながら、というのは意味がある活動だと思われる。NPOかJIAか、提携、協定などを結び、DAASの機能で補間する、ということで存在感をしめしたい。

(竺主査) それは企画を作成して、進めるということになるだろうか。

(事務局) DAASの存在感というWebのシステム、データベースだろうか。

(三塩幹事) そうなると思うが、あまりJIAばかりということではなく、BCS、その他団体も、とならないと問題になるのではないか。DAASの設立主旨からすると、広く建築団体と提携し、ということになる。

(竺主査) 海外発信をする場合、コンテンツの英語化が必要であるが、どの程度進んでいるだろうか。

(事務局) メタデータは英語情報が完了。動画の英語字幕は一部のみ、英文サイトも整備しているが、ニュースは整備できていない。データの検索も可能であるが、英文名は明確でない建物が多く、やむを得ずローマ字読みとしているものも多いが、全て英語情報にしている。

(竺主査) それ(英文名が明確でないこと)は世界的な現象である。ゲッティが進めているレジストリでも「カウフマン邸」「落水荘=falling water」など通称、また別の「カウフマン邸」とも混同される。ゲッティとコロンビアでも統一化をすすめている。

(事務局) DAASでは設計者の申請された名称、新建築の情報であれば雑誌発表の名称、その他「かつこ書き」で旧名称、キーワードをいれるなど、柔軟性のあるシステムをベースとして整備している。使っていくことでキーワードが増える。使ってもらうことが大事である。

(竺主査) 英語化ができているのであれば、議会図書館の建築アーカイブにボタンでリンクを張ることはできる。それができれば容易にできることになる。

(事務局) 海外の大学からの利用申し込みがあり、海外の方から見ると貴重な資料なのではないかと思っている。

(中田委員) 質問になるが、国際イベントにあわせてコンテンツを充実させるという動きがある場合、数字として増える、もしくは、実際に何か波としてうまくいっているという実感はあるのだろうか。例えば次回のオリンピックがあるのでそれに向けて、となると、それを目標に収蔵・コ

コンテンツを制作するということで費用を集める、など目処がたつ。前回のイベントの成果、使ってもらえた成果があったのだろうか。

(事務局) 前回は慶應のサーバの不具合と重なっている(UIA前後、震災後の節電と重なり慶應サーバに頻繁に不具合が発生)ため、アクセス数データが残っていない。またWebサイトも繋がらない状態が多かった。時期が悪く、具体的成果が数字として残っていない。

(中田委員) 先ほどの芦原理事長のインタビューを見ていて、先生の話が興味深く、魅力的な動画だと感じた。また武蔵野美術大学は話題となっていて、仮に英語の字幕、アテレコがあった場合、1964年と2020年のオリンピックとの関係性の特集コンテンツを制作した場合、魅力的なものになると感じている。芦原太郎氏、義信氏、また武蔵野美術大学と外国からの関心も高く、昔の校舎が見られると言うことであれば幅の広がり方がおもしろいと思っている。次回の国際イベントにむけて、そういうコンテンツ制作、シナリオをもう一度たちあげることは可能だろうか。今の話題につなげてユーザーの拡大に繋がっているということが大事なのではないかと感じている。

(事務局) 事務局でもなかなか、成果が掴みづらいというのが実感である。メタボリズム展の後に利用が増えた、などは数年後に感じる。内田先生のビデオも英語化しているが、数年後に金沢の美術館から申し込みがあった。その際に英語字幕のビデオを利用された。池田先生、内田先生のビデオだけUIAに近かったため英語化をしたのだが、できれば引き続き英語化はすすめたい。ニーズ、アピールはあると思われる。

(竺主査) 海外の機関と連携していればニーズはあがる。動画コンテンツの英語化はよいと思われる。建築家シリーズの動画(研究所名は話者に確認の必要有り)に字幕がついたものがあるのだが、翻訳がひどいのだが、学生に見せてもよいものである。

(事務局) YouTubeでは精度がひどいが、今自動で翻訳がつくようになっている。そのようなものでもよいと思われる。字幕制作時、内田先生の場合は松村先生を通して、研究に興味がある英語・日本語が堪能な大学生、池田先生も学生の方をお願いした。さほど手間がかからずできると考えられる。

(三塩幹事) あまりプロをつかって、手間をかけてという限界もあるが、経験があるのであればすすめるのも容易であろう。例えば中田委員の提案したビデオと新たなコンテンツ企画については、テーマについて、文脈、ストーリーなど具体的に5個でも10個でも作成して、現実的にすすめる、ということであれば十分であると思われる。キーワード、オリンピック、国際化、というのであれば、その活動を報告しながら、企業会員には会費を支払ってもらうような「ビジョン」を部会で作成して、来期から数年で実行することにする、としていくということでどうだろうか。国土交通省にも、そのようなテーマで活動していくための事業支援を用意して頂く、あるいは説明しやすい内容をもちこめないか、とつなげていく。1964年と2020年をつなぐコンテンツ、たりなければ収蔵する、ということをやっていく。そこに共存する建築を盛り込む、ということができれば、ストーリーができる。海外の方にも違う側面から1964年も見られる、となっていくのはよいのではないか。

(事務局) そういったストーリー、文脈作りができていなかったことが今までのDAASのコンテンツであった。ストーリー立てがあるのであれば。

(三塩幹事) DAASにいけば建築家の語り口調に出会えるというコンテンツは、大家の放送番組とは違うが、重要であると思われる。

(事務局) どう資料やコンテンツをみせるか、どういうコンセプトでコンテンツを制作するか、それは企業メリットなのか、団体へのメリットなのか、一般の方になるのか、を一つのコンテンツで難しいなら複数進めていくということになるのではないだろうか。

(中田委員) 必然的に複数になると感じている。芦原先生のビデオはロングテールのコンテンツになるが、短い期間でのコンテンツになるものもあるだろう。いくつかオーバーラップしていくことになるだろう。

(事務局) アーカイブについての動画コンテンツがもうすぐできあがる。「アーカイブ」について先生方から言葉を頂いている。鈴木博之前理事長、彫刻家の北郷先生の言葉等なども拾いながらつくっていくことも重要でないかと思われる。

(竺主査) 業界団体としてはどうだろうか。

(鈴木委員) 収蔵については、オリンピックという話も一方ではあるが、世界遺産がブームなので、あれを載せればアクセスが増えるのではないかと思われる。世界遺産のデータをどこが保存するか、見せるか、ということになるとDAASは非常にわかりやすいツールである。いろいろなところで集約していると思うので、うまく資料などを使わせてもらい、掲載ができれば、企業のメリット、方向性、また地方の活性化にも宣伝効果があり世界的アクセスの効果が期待できる。オリンピックについては、そのコンテンツによっては、現在の競技場問題で、企業として賛同しかねることもあると思うので、難しい部分もあるではないだろうか。DAASのコンテンツからずれると思うが、企業の賛同、アクセス数の面から考えると、見せるコンテンツを作る方がよいと思っている。オリンピックは2020年と先なので。

(三塩幹事) 海外の興味が日本に向けた際に建築のガイドになるという機能としてどのようなアーカイブにするか、どういう利用を促進するかというのがきっかけなので、オリンピックの関連施設ということではない。設計者に直接あえることはできないし、資料がどの程度残っているかということも難しいかもしれない。

(鈴木委員) 世界遺産になると、その資料はどこに収蔵、ストックするのだろうか。興味もある。所在する都道府県だろうか。世界遺産の建築に関してDAASにあってもよいのではないかと思う。

(竺主査) デザインサーベイを各大学がやっているので、どこかでやっているのではないだろうか。軍艦島もあるはずである。少し集めたことがある。大学に問い合わせると残っていない。研究室が変わると引き継いでいない。

(三塩幹事) 芸大にはたくさんあると思うが、原画がない。廃刊した雑誌「都市住宅」が宮脇氏のサーベイなどを扱っていたことがある。

(竺主査) あれは植田実氏がやっていた。世界遺産の実測資料があるはず。

(事務局) URの団地資料さえ問い合わせ箇所がわからない。

(竺主査)相田武文氏の80年、90年代の新宿や原宿などのサーベイがある。そういう発想もある。現代との対比も面白いコンテンツとなる。

(今倉委員)DAASがどちらにむかっていくのだろうか。「DAAS」が上位で検索に出てこない。基本的なアクセス数は確保する。実務に使える面も必要だと感じている。

(原田)企業メリットというかインパクトだろうか。教育に使うコンテンツなど。補助金の話も、アーカイブだけでということではハードルが高い、難しいのであるいは包括的なテーマで、今はまちなみの保存という関係から出してもらっている。そういう事もあったので、海外展開、日本の建築技術を海外へという話もある。海外に出る際に、海外から日本の建築資料がそろっているところがあれば、という話を聞いた。そういうものにDAASがなれば、というところである。日本を売り出していくという、そういうことを含めて、確かにテーマを絞っていく、ということはあるであろう。

(事務局)部会では、テーマだし、中期計画、具体的なタスクの整理だろうか。

(竺主査)オブザーバーとして参加の三田氏の意見を伺えるだろうか。

(三田)PRというところで。30～40代の世代はネット世代で日常的にSNSを使っている。過去のコンテンツ、オーラルアーカイブなど、持ち出せるところを小出しに随時発信していくというのがよいのではないか、と思っている。ビジュアルで見せられるということはすごく強い。インターネット上では訴求する場合は、ビジュアルで訴求しないといけな。言葉で書くと流れていってしまう。ビジュアルで一瞬で把握させる、というところがある。よく中小の製造業の方と仕事をすることがあるのだが、過去の仕事の実績をHP上で蓄積しているが、そこ(HP)にいかないと見られない。最近おすすめしているのは、FBページをもってもらい、例えば月に2本くらい、過去のアーカイブを掲載する予約をする。半年分の予約を仕込んでいく。一枚の写真と簡単な説明文ぐらいでよい。そういったことを手離れよくPRを仕込んでいくというのは簡単な方法と感じている。DAASのFBページもあるので、広くいろんな世代の人に知ってもらえるのではないかと思っている。

(事務局)若い方がDAASのサイトを閲覧されているという感触はある。登録情報として、ニックネーム、名前、メールアドレス情報だが、大学のメールアドレスの方、業界、不動産、海外の方、があるが年代としては若いように感じる。

(竺主査)色々な意見がでたが、これを集約してタイムテーブル(タスクリスト参照)を掲げながら進めていきたいと思う。よいだろうか。

(三塩幹事)次のビデオの撮影対象者は誰にするだろうか。芦原氏は思わぬ広がりを見せて興味深いコンテンツとなった。

(竺主査)親子二代の建築家というのはなかなかない、面白いものだ。

(三塩幹事)国立に反対している建築家というのはどうだろうか。大御所など。槇先生のものである。安藤氏は受けてくれないだろう。現実的でない。組織・個人のいずれでもかまわないのだが。

(竺主査)仙田満氏はどうだろうか。JIA、学会とも会長をされた。環境建築である。そういう意味では面白い。

(三塩幹事) 仙田氏とNPOについて、ということになるだろうか。

(事務局) 現在あるコンテンツとの文脈でつなげるということでもよいのではないだろうか。

(三塩幹事) 話題が広げられる人がいればというところである。

(竺主査) 女性がいらない。長谷川逸子氏。篠原聡子氏。

(中田委員) 東先生。坂倉事務所や丹下事務所のようにご本人はいらっしゃらないが後継者が振り返る、ということでもよい。

(竺主査) JIAの大会で必ずアーカイブシンポジウムがある。岡山の場合、岡山で建てられた建築やその事務所の思想等を中心に話を伺う。今回は金沢で、大谷(幸夫氏)氏の事務所の山本氏に依頼する予定。谷口吉郎氏は、継いでいるということではないので吉生氏ではない。

(三塩幹事) 谷口吉生氏は、オリンピックの時によいのではないか。父ではなく本人でもよいのだが。

(竺主査) 谷口氏の生家が金沢にあるが、金沢市に寄贈した。東京工大の谷口氏の資料を寄贈することになるかもしれない。本部会での検討事項をまとめてもらい三塩幹事と検討することにする

次回運営委員会 2015年8月5日 14:00～ 建築技術教育普及センター内会議室

以 上

以下は本議事録に追記の参考資料

[実測資料に関して]

書籍: 軍艦島実測調査資料集 追捕版—大正・昭和初期の近代建築群の実証的研究

出版社: 東京電機大学出版局 阿久井 喜孝 (アクイ ヨシタカ: 東京電機大学名誉教授。
1930年岩手県生まれ。56年 東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院丹下研究室で設計に参加(63年)。設計事務所自営、滞欧(チューリヒ、ベルリン)を経て、67年より東京電機大学建築学科で教育研究に従事(設計、都市デザイン、近代建築史)。軍艦島調査のほかに、地中海、オリエント、ヒマラヤ周辺国、中国の民家集落のデザインサーベイを重ね、2001年まで同大学教授)

書籍: 日本の伝統的都市空間 デザイン・サーベイの記録 図面篇

発行年月: 2003. 2 宮脇 檀 (著), 法政大学宮脇ゼミナール (著)

出版社: 中央公論美術出版 ISBN: 4-8055-0430-7

集落の構造と景観を分析するために客観的資料の作成というスタンスを一貫してとってきた、デザイン・サーベイの記録集。倉敷の運河沿いの家並み、木曽路の馬籠など、1967～70年に調査・発表されたもの

書籍: 復刻デザイン・サーヴェイ : 『建築文化』誌再録

明治大学神代研究室, 法政大学宮脇ゼミナール編著 彰国社, 2012.5 1968～1973 年に『建築文化』掲載の「デザイン・サーヴェイ」を再録。明治大学神代研究室の「風と海 祭りと集落」女木島、法政大学宮脇ゼミナールの「街をつくる道」馬竈など全 7 回を収録

大学: 九州大学大学院芸術工学研究院芸術文化環境論藤原恵洋研究室

環境・遺産デザイン部門

: <http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~keiyolab/>

[世界遺産登録について] 引用: <http://bunka.nii.ac.jp/index.php>

Web サイト: 現在、文化財遺産オンライン(企画・運営: 文化庁と国立情報学研究所)という HP「世界遺産と無形文化遺産」というページで(特に建築等)については、写真が閲覧できる。

下線があるものは建物、まちなみに関する遺産

日本の世界遺産登録数 19 (文化遺産15、自然遺産4)

- ・ 知床 - (北海道)
- ・ 白神山地 - (青森、秋田)
- ・ 平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 - (岩手)
- ・ 日光の社寺 - (栃木)
- ・ 富岡製糸場と絹産業遺産群 - (群馬)
- ・ 小笠原諸島 - (東京)
- ・ 富士山－信仰の対象と芸術の源泉 - (静岡、山梨)
- ・ 白川郷・五箇山の合掌造り集落 - (岐阜、富山)
- ・ 古都京都の文化財 - (京都)
- ・ 古都奈良の文化財 - (奈良)
- ・ 法隆寺地域の仏教建造物 - (奈良)
- ・ 紀伊山地の霊場と参詣道(通称: 熊野古道) - (和歌山、奈良、三重)
- ・ 姫路城 - (兵庫)
- ・ 石見銀山遺跡とその文化的景観 - (島根)
- ・ 原爆ドーム - (広島)
- ・ 厳島神社(宮島) - (広島)
- ・ 明治日本の産業革命遺産 - (山口、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、岩手、静岡)※
- ・ 屋久島 - (鹿児島)
- ・ 琉球王国のグスク及び関連遺産群 - (沖縄)

暫定リスト 文化遺産

- ・ 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群 - (北海道、青森、岩手、秋田)
- ・ 金を中心とする佐渡鉱山の遺産群 - (新潟)
- ・ 国立西洋美術館本館 - (ル・コルビュジエの建築と都市計画の一部として) - (東京)

- ・ 武家の古都・鎌倉 - (神奈川)※推薦取り消し
- ・ 彦根城 - (滋賀)
- ・ 百舌鳥・古市古墳群 - (大阪)
- ・ 飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群 - (奈良)
- ・ 宗像・沖ノ島と関連遺産群 - (福岡)
- ・ 長崎の教会群とキリスト教関連遺産 - (長崎)

時代から見る	分野から見る	文化財体系から見る	地図と条件から検索	美術館・博物館を検索
--------	--------	-----------	-----------	------------

世界遺産と無形文化遺産

世界遺産

>> 世界遺産(文化遺産)一覧

- >> 法隆寺地域の仏教建造物
- >> 姫路城
- >> 古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)
- >> 白川郷・五箇山の合掌造り集落
- >> 原爆ドーム
- >> 厳島神社
- >> 古都奈良の文化財
- >> 日光の社寺
- >> 琉球王国のグスク及び関連遺産群
- >> 紀伊山地の霊場と参詣道
- >> 石見銀山遺跡とその文化的景観
- >> 平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群

世界遺産



日本は、1992年、ユネスコの世界遺産条約(「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」—1972年採択、1975年発効)を締結し、翌1993年、「法隆寺地域の仏教建造物」及び「姫路城」の2件が文化遺産として、また「白神山地」及び「屋久島」の2件が自然遺産として、我が国から初めて、世界遺産一覧表に記載されました。その後、1994年に「古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)」、1995年に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」、1996年に「原爆ドーム」及び「厳島神社」、1998年に「古都奈良の文化財」、1999年に「日光の社寺」、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」、2007年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」、2011年に「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」が、それぞれ文化遺産として世界遺産一覧表に記載されています。

日本の世界遺産(文化遺産)一覧

第9期(2014-2015年)収支計算書(案)

2014年10月1日から2015年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額(a)	決算額(b)	差異(a-b)
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1 会費・入会金収入	7,260,000	6,620,000	640,000
企業会員	5,230,000	4,590,000	640,000
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2 事業収入	3,050,000	3,205,250	△ 155,250
Webコンテンツ作成事業※	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	205,250	△ 155,250
3 その他収入	0	1,626	△ 1,626
受取利息	0	0	0
雑収入	0	1,626	△ 1,626
事業活動収入 計	10,310,000	9,826,876	483,124
事業活動支出			
1 事業費支出	4,625,000	3,648,383	976,617
WEBサイト改修委託支出	0	0	0
イベント事業支出	0	0	0
コンテンツ整備事業支出	53,000	60,917	△ 7,917
サーバ管理委託費	1,572,000	587,466	984,534
Webコンテンツ作成事業※	0	0	0
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	432,000	432,000	0
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	432,000	432,000	0
Webコンテンツ作成事業/オールアーカイブ制作	1,620,000	1,349,116	270,884
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	151,200	606,838	△ 455,638
Webコンテンツ作成事業/その他経費	364,800	180,046	184,754
保守費支出	0	0	0
2 管理費支出	5,443,000	2,753,420	2,689,580
事務所経費	20,500	2,402	18,098
人件費	3,360,000	1,649,475	1,710,525
法定福利費	680,000	342,430	337,570
旅費交通費支出	235,000	111,153	123,847
機材費支出	150,000	75,600	74,400
通信運搬費支出	260,000	292,938	△ 32,938
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	467,500	208,117	259,383
租税公課支出	80,000	0	80,000
会計士外部委託費支出	160,000	0	160,000
雑費支出	30,000	71,305	△ 41,305
事業活動支出 計	10,068,000	6,401,803	3,666,197
事業活動収支差額	242,000	3,425,073	△ 3,183,073
II 投資活動収支の部			
投資活動収入			
修繕引当預金取崩収入	0	0	0
その他固定資産取得収入	0	0	0
投資活動収入 計	0	0	0
投資活動支出			
修繕引当預金取得支出	0	△ 70,986	70,986
その他固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出 計	0	-70,986	70,986
投資活動収支差額	0	70,986	△ 70,986
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額			
	0	0	0
IV 予備費支出			
予備費支出	4,859,736	0	4,859,736
当期収支差額	△ 4,617,736	3,496,059	△ 8,113,795
前期繰越収支差額	4,617,736	4,617,736	0
次期繰越収支差額	0	8,113,795	△ 8,113,795

※一般社団法人住まい・まちづくり担い手支援機構が実施した、住宅・建築物による景観形成に資する活動の推進及び評価方法等の技術基盤の整備に関する事業のうち、DAASは優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWEBコンテンツ作成支援業務を受託

総会必要項目とスケジュール

運営委員会

総会

作業項目	作業小項目	備考	書式	事務局・所属会社など		委託会社		会員・その他		作業期間												進行	備考					
				連絡先	確認日	連絡先	確認日	連絡先	確認日	7月			8月			9月			10月					11月				
										初	中	下	初	中	下	初	中	下	初	中	下			初	中	下		
会員担当者確認	1 一斉メール	総会案内告知までに変更届け提出と返信を依頼	有						会員窓口担当者 へメール	(6～7月)	◆	◆	◆	○													済	
	2 各名簿訂正		有	事務局	(随時)										◆													
	3 MLの訂正	D-officeなど	有	事務局	(随時)																							
請求書発行	1 一斉郵送	振り込み期限を年度初めまで	有						会員窓口担当者 へ郵送	(8～9月初)					◆	◆												
総会告知	1 理事長への日程確認	10月後半の開催日で								(7～8月)			◆	○														
	2 理事長への事業報告	9月								(9月)							◆	◆										
	3 会議場予約	30名来コの字＋事務局席 ＋スクリーン				会議場	(7～8月)					◆	◆															
	4 告知	連絡窓口担当＋指定代表者宛＋出欠確認表(委 任を明記)＋会場案＋返信封筒							会員窓口担当者 へ郵送	(8月)					◆													
	5 出欠確認	未回答についてのフォローも							会員窓口	(9月下旬)									◆									
運営委員会開催 (年度末)	1 総会議事案の作成	※役員選任の查数期にはその旨も掲載のこと		事務局	(9月)												◆											
	2 総会書類作成	事業報告＋事業計画＋委員長挨拶＋その他総会 議案	有	事務局	(8月下旬)												◆											
	3 予算書作成	事業についての見積書の確定		事務局	(9月初)													◆										
	4 決算書作成	9月中旬までの伝票の確定		事務局	(9月中旬)														◆									
	5 告知	資料を1週間前までに委員へ送付							委員へ	(9月中旬)									◆									
理事	1 理事継続依頼、内諾等	電話等、ただし、国土交通省からの依頼分あり、特 に設置関連団体は注意の事。		事務局	(8月中旬)				理事宛 郵送ま たは電話など	(8～9月)					◆	◆	◆										無	今期は任期途中
総会資料	1 事業報告書	委員会での資料に再度訂正		事務局	(10月中旬)																		◆					
	2 事業計画書			事務局	(10月中旬)																			◆				
	3 決算書作成	会計監査書類と併せて作成(10/10まで程度の支 払いを含める)	有	事務局	(10月初)																			◆				
	4 監査報告書類	会計士＋銀行(残高証明)へ依頼	有			会計士事務所＋ 銀行	(9月下旬)											◆	◆									
	5 会計監査	監事への報告☆早めに10月の2～3週の予定を御 願いしておくこと。会計士さんへも同様に依頼						監事会員の 窓口担当者へ	(9～10月初)									◆	◆									
	6 予算書作成	確定の予算書を		事務局	(10月中旬)	委託会社へ																	◆					
☆監事への会計報告に必要な書類☆規約・事業報告・領収証・業務委託契約書類控・朱肉																												
レイアウト確認	1 会議場内備品手配	マイク(4本)プロジェクター、スクリーン				会議場	(10月中旬)																◆					
	2 飲み物手配	ケータリング＋ミネラルウォーター等				会議場orケータリ ング会社など	(10月中旬)																	◆				
	3 名札作成	指定代表者にて作成	有	事務局	(1週間前)																			◆				
	4 席表作成	出席者確定後	有	事務局	(1週間前)																				◆			
当日持込機器	1 撮影用・投影用機材	VIDEO.PC、ICレコーダー e-mobile ケーブル類																										
配付資料	2 総会・理事会資料																											
	3 規約(規約改訂時)																											
	4 理事・監事内諾書(奇数期)																											
当日用書類 (配布資料以外)	1 席次表	受付にて手渡し	有	事務局	(1週間前)																		◆					
	2 名札																											
	3 出欠確認表(受付用)	受付にて名刺を受け取り後チェック		事務局	(1週間前)																		◆					
	4 出席簿	名刺がない方に記入を依頼	有	事務局	(1週間前)																			◆				
	5 受付備品	名刺受、受付案内、		事務局	(1週間前)																			◆				
	6 現金	当日のアルバイトの費用																							◆			
総会議事録 承認資料 等	1 議事録作成			事務局	(数日後までに)																		◆					
	2 議事録署名人押印依頼	理事長＋署名人2名への依頼 ※出席者より理事 ご出席の方に依頼を行う。	有						署名人十 理事長へ連絡	10月上旬														◆				
	3 理事長挨拶	テーブルおこし＋理事長への確認	有		(数日後までに)				理事長へ確認															◆				
	4 承認資料、議事録の送付	欠席会員＋出席会員へ	有		(1週間～ 2週間以内)				会員窓口担当者へ																◆			
	5 DAAS-Webへの掲載	承認資料＋議事録＋理事挨拶＋新規名簿＋改訂 後規約 等々	有	事務局	(1週間～ 2週間以内)																				◆			